

福岡大学医学部同窓会

同窓会会報

第10号

第10回 福岡大学医学部同窓会総会案内

日時 平成3年7月6日(土) 午後7時
場所 福岡国際ホール(西日本新聞会館16階)

(詳細は3ページをご覧ください)



卒業記念樹の並木

目 次

第10回福岡大学医学部同窓会総会案内	3
ごあいさつ	同窓会々長 山崎 節 4
医学部創立20周年、同窓会創立10周年に向けて	
.....記念事業担当理事	吉田 隆 4
就任挨拶	健康管理科教授 鈴木 九五 6
〃	整形外科助教授 岩崎 敬雄 6
〃	臨床検査医学助教授 井手口 裕 7
定年退職教授挨拶	外科学第一教授 志村 秀彦 8
〃	整形外科学教授 高岸 直人 9
会員寄稿	のほら小児科医院 3回生 野原 薫 10
〃	信州大学第1外科 4回生 嘉数 徹 10
〃	コロンビヤ大学 6回生 宮本 康嗣 11
脳神経外科医局紹介	松田 年浩 15
筑紫病院・新規開店のお知らせ	眼科 大塩 善幸 15
会員訃報	16
松崎元徳君を偲んで	仁位 周介 16
松崎元徳君へ送る	松岡 弘文 16
学生欄	
第10回医学祭をふりかえって	M5 赤松 春樹 17
第11回医学祭を迎えるにあたって	M4 満尾 雅彦 17
「無気力・無感動・無関心」	M4 嶋田 充志 17
「Do you know archery?」	M4 宇野 博之 18
漕艇愛好会	M4 山田 徹 18
会議報告	19
お知らせとお願い	19
毎日新聞の新聞広告について	19
住所等の変更〔訂正Ⅲ〕	20
編集後記	24

第10回福岡大学医学部同窓会総会御案内

拝啓 新緑の候、同窓生各位におかれましては、ますます御健勝の事と御喜び申し上げます。この春、第14回生が会員に加わり同窓会もますます充実する事と考えております。

さて、今年も第11回生が当番幹事となり、恒例の福岡大学医学部同窓会総会および懇親会を下記のごとく開催いたします。益々の盛会と、魅力ある同窓会とするために多数の方々の御参会を御待ち致しております。本年も総会に引き続き、卒業年度別の学年会（各々別会場）を計画いたしております。御多忙の折とは存じますが、何卒万障繰り合わせの上、懐かしい方々と旧交を暖めて頂きたいと存じます。

つきましては、御手数ではございますが、同封のはがきに御出欠を記入の上、同窓会事務局宛御返送ください。御欠席の場合も総会の委任状欄も併せて御記入ください。

尚、各学年会についても同封の別紙御案内を御覧の上、葉書の出欠欄（表側）に御記入いただきますよう御願いたします。

敬具

1991年5月

福岡大学医学部同窓会 会長 山崎 節（第1回生）
幹事代表 武末佳子（第11回生）

記

日時：平成3年7月6日（土）

- ・総会……………午後7時
- ・懇親会……………総会終了後（午後8時頃）
- ・各学年会（各学年毎、別会場）……………懇親会終了後

場所：福岡国際ホール（西日本新聞会館16階）

福岡市中央区天神1-4-1 TEL. 092-712-8855

会費：5,000円

*各学年会費については同封の“学年会御案内”参照のこと。

※準備の都合上、出欠通知並びに委任状は、6月15日までに到着するよう、御投函ください。

※講演会、懇親会のアトラクションについては現在検討中です。当日をお楽しみに…

同窓会会則、細則改正案のご検討をお願いします

今後、わが同窓会も会員数の増加に伴い、社会的影響力が更に増加して行く事が予想されます。今回、評議員、会員諸子のご提言により同窓会会則細則の改正を行う事になり、その改正案が今度の総会に諮られます。同封の別紙がその改正案です。同窓会設立10周年の節目に当たり、大幅な改正となりますので、多数の方の総会ご出席と忌憚の無いご意見を期待しています。どうか前もってお目を通され、ご検討戴きますようお願い致します。

ごあいさつ

会長 山崎 節

平成3年となり、福岡大学医学部同窓会も設立10年目を迎える事となりました。言うまでもなく、今年4月4日に福岡大学医学部に入学した諸君は、第20回生に当たります。医学部同窓会としては、昨年の総会で第5期の役員が新たに決まり、各委員会を中心にして精力的に活動を開始しました。つまり今後の同窓会活動に関係深い会則を見直して改訂する作業を始め、来年度に予定している同窓会創立10周年、医学部・病院創立20周年の記念に向けての準備などに取り組んでいます。

創立10周年記念事業は、理事会及び役員会で協議の結果、会員の皆さんが日常診療で利用していただける、マニュアル・ブックの出版を企画しました。既に各医局の会員に執筆者の選定を依頼し、来春の完成を目指してマニュアル編集委員会が活動しています。又、会員名簿も同時に改訂する予定です。

会則の改訂について、少し説明を致したいと思います。福大医学部同窓会の会則は、設立時の昭和57年の総会で採決された、言わば同窓会発足と基礎作りの為の会則の色合が濃く、比較的大まかな規定に止どまっています。これを現状に即した物に改め、更に同窓会活動の活性化を目指すものです。現会則上は理事会及び理事と評議員で構成する役員会が有りますが、その性格には明確な規定は有りません。そこで、理事会を執行機関に、評議員会を議決機関とするように性格を細則に定め、更に評議員を従来の卒業年

度別のみならず地方支部の代表者も評議員に迎えたいと考えております。

又、従来の会則では卒業生のみを会員として、同窓会活動の対象にして来ましたが、今後は在校生を「準会員」とすることになりました。今までは学生との交流が少なく、その事が会員になってからも、同窓会に対しての関心の低さにつながって来ている事も考えられます。学生時代より同窓会活動に興味と理解を求めると共に、同窓会としても種々の面で学生の活動を支援して行く事も推進しようと考えております。

従来の活動では、各地の支部を充実させたいと思います。今年は筑豊地区と沖繩に新たな支部が結成されます。従来盛んに活動してきた北九州支部も会員連携のために「会員地図」の作成など地域の実状に合わせた活動を展開して行くようです。本部としても、是非援助をしたいと思えます。

そのためにも活動資金となる、会費の納入を徹底しなければなりません。今回の会則改訂では年会費を廃止し、終身会費に一本化する予定ですが、現在終身会費の納入率は65.5%（平成3年3月18日現在）であり、更にこれをアップするように努めなければなりません。終身会費未納の方は是非早めに納入して下さい。

医学部同窓会は従来通り、会員の皆さんの積極的なご意見をお待ち致しております。

医学部創立20周年、同窓会創立10周年に向けて

記念事業担当理事 吉田 隆

平成4年は、福岡大学医学部にとっては、創立20周年、医学部同窓会にとっては創立10周年といった記念すべき年になります。20年間という年月は、短かくも感じますが、この20年間に医学部を卒業

した14学年の総数は、1514名となり、この数を考えると長い月日を感じます。振り返れば、医学部創立10周年時に、我々、福岡大学医学部同窓会は誕生し、福岡大学医学部創立10周年記念事業の一部に参

画し、「健康フェア」の健康相談、また、各科の代表的疾患のパネル展示をしたのを覚えています。その後の同窓会の活動は、限られた人数、時間、予算の中でのものであり、非常に地道なもので、同窓会会員諸員には、不満の念を抱かれたのは事実です。しかし、同窓会々員数も1,500を越える大所帯になり、この現状を打破する為に、昨年からは、実行委員を増加し、同窓会活動業務の分担をして、同窓会の将来に向けての新たな展望を開こうと努力しています。活動具体案は、現在検討中ですが、本年度の同窓会総会時には会員諸兄に呈示出来ると思います。また、在学生への援助も本年度からは、具体的に可能と思います。来年度

の医学部、病院の創立20周年記念事業の具体案は、現在、不明確ですが、同窓会として、協賛可能なる部門があれば、勿論、参加の予定です。同窓会自身としましては、創立10周年事業を現在、検討中です。何か一つは、“会員の手作りのもの”といった意見から、「当直医のためのマニュアル(仮称)」に決定し、現在、各科の会員の担当者が決定し、既に、実行されつつあります。その他の事業も、なるべく、将来に継続出来るものと考えています。兎に角、来年の創立10周年を、同窓会の飛躍の年にと担当者一同、奮闘していますが、その目標達成には、会員諸兄の御協力、御援助をお願いする次第です。

医学部・病院教員人事 (講師以上)

平成3年4月1日付

<昇任>

教授 鈴木 九五 (福大病院、健康管理科・健康管理センター)
 助教授 井手口 裕 (医学部、臨床検査医学)
 講師 江浦 陽一 (福大病院、耳鼻咽喉科・1回生)
 “ 岡部 信郎 (“ 内科第一)
 “ 加藤 整 (“ 眼科・5回生)
 “ 亀井 博之 (“ 内科第一)
 “ 司城 博志 (“ 内科第一)
 “ 西村 美保 (“ 小児科)
 “ 原田 敏郎 (“ 外科第一・2回生)
 “ 松岡 正樹 (“ 内科第一・2回生)
 “ 本岡 精 (“ 内科第二)
 “ 諸江 一男 (“ 内科第二・3回生)
 “ 諸岡 達也 (“ 小児科・2回生)
 講師 緒方 博子 (筑紫病院、小児科)
 “ 山崎 恵三 (“ 、耳鼻咽喉科・4回生)

<採用>

助教授 稲益 建夫 (医学部、公衆衛生学・九大より)
 “ 瓦林達比古 (“ 産科婦人科学・佐賀医大より)
 “ 神宮 賢一 (“ 放射線医学・九大より)
 “ 小野 順子 (筑紫病院、内科消化器科・大分医大より)

<移動>

助教授 広木 忠行 (筑紫病院、内科消化器科へ)

<退職>

教授 志村 秀彦 (医学部、外科学第一・定年退職)
 “ 高岸 直人 (“ 、整形外科学・ “)
 “ 牛島 定信 (“ 、精神医学・慈恵医大教授へ)
 助教授 亀田 芙子 (“ 、解剖学第二・北里大教授へ)



鈴木九五教授の略歴 大正13年1月5日生 67才

昭. 23. 9 九州大学医学部卒業
 29. 4 九州大学医学部助手 (第3内科)
 31. 6 医学博士
 37. 8 九州大学医学部講師 (第3内科学)
 41. 1 九電病院内科長
 46. 8 香椎病院内科長兼放射線科長
 48. 4 福岡大学 (病院) 助教授
 57. 4 福岡大学健康管理センター診療所長
 平. 3. 4 福岡大学教授 (健康管理センター診療所長)

健康管理科 鈴木九五

香椎病院以来、福岡大学にお世話になっています。健康管理学というやさしくて難しい学問が研究のテーマです。目覚ましく進歩した現代医学を駆使して健康のチェック、疾病の早期発見に取り組むこととなりますが、一方では「健康」という判ったような判らぬようなものを模索しています。これが判れば病気の治療とか予防とかいうような病気と対決する考え方とは別に、病気に背を向けて「健康」に向かってまっしぐらに進むというもう一つの考え方が確立するのではないかと夢見ているところです。医学が未だ進歩していなかった古い時代には、病気の治療法はいうまでもなく、病気の予防法もよく判らなかつたことでしょう。その時代には自然の治癒力を十分に発揮するだとか、生命力を発揮するというような考え方が、現代に比べて遙かに切実であったに違いありません。当時の古典にも大変興味を覚えています。



岩崎敬雄助教授の略歴 昭和19年4月20日生 47才

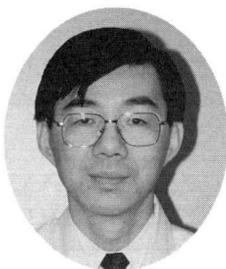
昭. 45. 3 鹿児島大学医学部卒業
 46. 6 九州大学医学部整形外科勤務
 47. 2 国立別府病院整形外科勤務
 47. 11 九州大学医学部整形外科勤務
 48. 6 北九州市立若松病院整形外科勤務
 48. 12 佐賀整肢学園勤務
 49. 4 福岡大学病院助手 (整形外科・リハビリテーション部)
 58. 10 同 講師 (同・同)
 平. 2. 10 同 助教授 (同・同)

リハビリテーション部 岩崎敬雄

昭和19年4月20日、北九州市戸畑で生まれました。血液型はO型。父親が九大病院、満鉄病院、久留米国立病院、九州労災病院、門司労災病院と勤務先がかわるたびに各地をまわりました。満州から引き揚げてくる時の苦労話なども聞かされましたが赤ん坊だったために何も記憶に残っていません。残留孤児の報道をテレビでみるごとに他人事でないような気がします。小学校から高等学校まで小倉の葛原という所ですごしました。まだ田舎で小学校は校舎が不足していたため午後から授業があったり、農家が多かったため農繁期は学校が休みになったりしていました。小倉高校、鹿児島大学卒業後、九州大学整形外科に入局し4年間大学や、出張先の九州労災病院、北九州市立若松病院、国立別府病院、佐賀整肢学園などをまわりました。昭和49年より福岡大学にお世話になっています。高校時代は非常に楽しくてしようがなかったという青春時代の思い出はありませんが、どういわけか高校15期卒の福岡支部同窓会の代表幹事をさせられています。女房も同じ高校の後輩です。大学時代は茶道部と登山部にはいっていました。小倉高校出身の先輩の勧誘で裏千家の茶道を6年間しました。点前よりも茶碗づくりに興味をおぼえ、何度か窯元をたずね、粘土をこねて釉薬をかけ茶碗をつくったものです。登山は屋久島に何度も登りました。世俗化されてなく鹿の沢や花之江

河などの中腹部の湿地帯はまるで天国のように思われました。今、注目をあびている縄文杉や大王杉などが発見された頃で、それらの巨木に圧倒されたのを思い出します。九州から離れたことがないのでプロ野球はもちろん地元の西鉄ライオンズ、現在はダイエーホークスを応援しています。親類が阪神タイガースのフロントにいますのでセリーグは阪神のファンです。再下位同士のホークス対タイガースの日本選手権の実現を夢みていますがいつ実現するのやら。自分で野球をするのも好きで整形外科医局対医学部学生の軟式野球愛好会で何度か試合したこともあります。現在は40才以上でつくった地区の草野球チームに属し、切れかかった肩腱板に鞭うって若い年令のチームと互角に試合をしています。他に近くのスポーツクラブで水泳をしたり、庭での日曜菜園、みようみまねのパソコン操作などが現在の趣味となっています。

福岡大学に赴任当初は、整形外科の勉強を主にリハビリを合間にする程度でした。大学病院西別館に立派なリハビリ訓練棟ができる話がおきた頃より本格的にリハビリの勉強を始めました。全国各地をまわって研修を続け、現在は施設、スタッフも年々、充実しております。今後さらに各種の障害をあわせもった老人が増え、新しい治療法に対応できるようリハビリへのニーズが増してくると思います。それに答えるべく努力を続けたいと思います。本年4月よりリハビリテーション部長に任命されました。いろんな注文や相談があったら遠慮なく申しでいただき、大いに利用していただけたらありがたいと思っております。



井手口裕助教授の略歴		昭和26年2月25日生	40才
昭.	52.	3	九州大学医学部卒業
	54.	4	福岡大学医学部助手(生化学第2)
	57.	4	飯塚病院内科勤務
	58.	4	九州大学医学部助手(第3内科)
	59.	6	医学博士
平.	1.	10	福岡大学病院講師(臨床検査部)
	3.	4	福岡大学医学部助教授(臨床検査医学)

臨床検査医学 井手口 裕

昭和52年九大を卒業し、第3内科入局。2年間の研修医生活を経て、昭和54年より3年間福大生化学第2講座にお世話になり、赤血球膜蛋白の研究に従事しました。その後、再び九大に戻り血液疾患の臨床と研究に携わっていましたが、平成元年10月より、濱崎教授の御好意により、福大病院臨床検査部に赴任致しました。

私の研究テーマは、溶血性貧血の診断と病態の解明であります。一言で溶血性貧血と言っても極めて多くの疾患を包含しており、これらの鑑別診断は必ずしも容易ではありません。特に先天性の疾患の大多数の確定診断のためには、種々の特殊検査が必要であります。そこで、これらに対処しうる診断システムを確立するため、検査部内に特殊検査部門を設け、基礎的検討を行ってきました。早いもので既に1年半が経ち、18種の赤血球酵素活性測定、ヘモグロビン異常の分析(電気泳動、吸収曲線、酸素解離曲線、異常鎖の同定等)、赤血球膜蛋白電気泳動などがルーチン検査として処理できるようになりました。私どもの試みは、現在在我国では唯一のものであり、先日厚生省の高度先進医療機関として福大病院が認定を受けることになりました。最近、院内はもとより、院外からも検査依頼があり、ほんの数カ月の間に酵素異常症やヘモグロビン異常症が数例ずつ発見されています。原因不明のまま放置されている貧血例が意外に多いことに些か驚いているところです。現在は、更に遺伝子解析による新しい診断法を開発するため準備をしているところです。

1カ月ほど前に40才の大台に達し、体力が落ちたせいか無理が出来なくなってきましたが、気力だけは充実させて今後も頑張っていきたいと思っています。趣味は、クラシック鑑賞(特にモーツァルト)、ギター、ドライブ、山歩き、パソコン。

定年退職教授挨拶



良医の条件

外科学第一教授
志村 秀彦

本年、定年を迎え退職することになった。ホッとした開放感と一抹の寂しさを交えた複雑な心境である。大学を卒業してから、医師として、又外科医として、教育畑をひたむきに走り続けた約50年の歳月は、私の脳裏の中にしっかりと根づいているようである。卒業後、軍医として戦場を駆け回った頃、終戦後、九大の古巣に戻り、生きている喜びを噛み締めながら荒涼とした学園の再建に努力した頃、弘前大学での7年間、米国留学の2年間、更に九大での15年間など思い出は尽きない。しかし、最後に過ぎた福大医学部での思い出は最も印象的である。

昭和48年4月福岡大学医学部が開設されたが、当時、新設医科大学ラッシュの最中にあり、九大第一外科教室助教授として在籍していた私にとって何か落ち着かない毎日であった。教授の一声で何時、何処に行かされるか分からないからである。幼い子供を連れて、未知の土地に行くのは何となく気に乗らず、住み慣れた福岡の地を離れたくないと言う気持ちで一杯であった。福大医学部新設の話があったのは丁度その頃であり、教授の薦めに喜んで応じた次第であった。しかし、開設当時の慌ただしさは又ひとしおであり、九大事務所や恵愛団の一室を借りて、開設準備の打合せやら、今後の在り方などに長時間を費やしたのが思い出される。その数年前、東大を手始めに、全国に蔓延した学園紛争の波も、当局の強気姿勢で、一応下火になっていたが、地方ではまだ燻り続けており、今までの教授を中心とした強い絆にも隙間風が吹きかけていた時代である。学園の封建性打破を叫んで活動した若者達は勿論、居残って頑張っていた優秀な医師や研究者も将来に希望がもてず、次々に学園を去り、研究活動にも白けムードがただよっていた。活路を求め、新天地に憧れて遠隔の新設大学に移る同僚もあったが、地元と云うことで、福大医学部に大きな望をかけてい

た人達も少なくなかった。私もその一人であり、国立大学では期待できない新しい態勢を作ることが、私達の願いであった。即ち研究中心の国立大学の暗いイメージから脱却して、患者中心の明るい雰囲気をかもし出すにはどうしたら良いかを模索する毎日であった。

昭和48年8月香椎病院から、現在の福岡大学病院に移転し、本格的な医療活動が行われることになった。油山のふもと、風光明媚な環境の中に建てられた明るく広々とした病棟を見て、心が躍る思いであった。福大は西区にあり、東区の九大と競合する心配は少なかったが、道路事情が悪く、患者側に交通上の多大な不便をかけるのが気掛かりであった。研究資材に乏しく、研究要員も少なかったのも、研究面では九大と到底たちうちはできない。従って国立大学では出来ないことをやるのが賢明である。即ち国立大学とは違った診療、研究体系を作り、第一線医療を支える優秀な医師を養成することが急務と思われた。そこでわたし達は従来の研究中心の医療から、患者中心の医療へと転換を計り、患者から学ぶ姿勢、真摯にして誠心誠意患者に尽くす、本来の医師像に戻すことが必要であった。長い間、臨床に携わっていると患者から教えられることが、いかに多いかが分かる。まづ些細な患者の訴えや症状、或は検査所見を見逃すことなく、その中に秘められた真実を読み取ることが大切である。研究面での不備は他の国立大学との連携、即ち相互的人的交流によって補うことが出来るので、九大を始めとする九州各大学や中国、四国、更に大阪、東京の各医大との連携を深め、人材の養成と確保に務めたわけである。

このようにして18年が過ぎ、1500名近い卒業生を送り出し、教室でも100名近い人材を養成して第一線に送り出した。幸い関連病院での評判も良く、患者の受けも上々である。私の恩師赤岩八郎先生の教えに、「善人に非ざれば、良医に非ず」と云う言葉がある。私も早くからこの教えを信奉して、善人たらんと心掛けて来たものである。この言葉は現在の福大氣質にピッタリである。健全な身体と心、それに医療への情熱、育ちの良さから滲みでる優しさなど、良医の条件は揃っている。これにもう少し積極性が加われば、申し分ないが、豊富な経験によって、身体の中に染み付いた知識や技術を、出来るだけ多くの人々に分け与え、地域医療に役立て、福岡大学のイメージを更にアップさせてもらいたいと願っている。



退職にあたって

整形外科教授
高岸直人

昭和47年4月1日、福大医学部創立第一回教授任命の辞令を戴きに本部に行ったのが福大とのつながりを実感として感じた第一日でした。爾来19年、70歳の今日迄、色々なことがあったように思うが余り有能でなく、しかも12年3カ月という長年月一般病院の部長でしかなかった私を飽きもせず勤めさせて呉れた福大に先ずお礼を申し述べたい。65歳を越すと自分の能力の低下が等比級数的に落ちて行く現実に直面させられて、辞表を出すべきではなかろうかと考えたこともあり、医学部の先輩、同僚、教室員、学生諸兄に随分迷惑をかけたことと思っている。このような中で何とかまがりなりにも大きなほろを出さないままに退職することができると事内心ほっとしているのもいつわらざるところである。19年の歳月は、私に大きな他の職場では味わえない素晴らしい思い出を作ってくれた。特に教壇を通じてあるいは、スポーツを通じての学生諸君との交わりは最高の喜びであった。教室での授業、外来でのポリクリ、硬式庭球部との創設以来の縁はおそらく一生の思い出のなかにのこることであろう。九山三連覇の夢を達成して飲んだ酒の味は今でも心のどこかに残っている。ポリクリを通じてのふれあいも楽しい時間であった。患者さんを通じての師と弟子との真剣なやりとりは決して学生諸君だけの進歩のためのものでなく、そこにいる全ての医師の知識の向上と医師としてのモラルの獲得にも役立つものであると信じている。

本学のスポーツ部のサッカー一部部長として12年余り勤めさせて戴いた。日本で唯一の第1回以来13年間大学選手権地区代表を続けて居り、私自身学生時代サッカー選手として頑張っていたこともあり大変喜ばしい事であった。同部の今後の活躍を学外から応援したいと思っている。

教室は小児科、耳鼻科、皮膚科と共に一年目に創設された所である。松崎助教授、清水・木田君達とその発展に努力してきたが、12年有余の大学からのブランクは致命傷に等しく、全く

迷惑のかけどうしで大変すまなく思っている。此の時代の学部長兼病院長であった樋口教授にはお礼の言葉もない位である。以来教室のみんなが力を合わせてまがりなりにも、113名の同窓会員、106名の登録医研究会員の先生方と福大整形外科教室のカラーを作ることが出来たと思っている。教室は5回の西日本整形災害外科学会、第7回整形外科スポーツ医学会、第26回日本手の外科学会、第22回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学会、第9回西日本臨床スポーツ医学会、第1回日本肩関節学会、第3回世界肩関節学会をはじめ、地方会の主催は枚挙にいとまがない位でその都度その存在価値がアピールされてきたようである。またすこしずつ若い人材が増えて来て、日本整形外科学会、日本リウマチ学会、日本リハビリテーション学会、日本形成外科学会の指導者養成認定病院に指定される事が出来た。一つの科で4つの認定病院に指定されているのは整形外科関係では福大だけではないかと自画自賛している。みんなで力を合わせていけば、10年～20年の歳月は大きな力となって若い大学教室を成長さして行くものである。福大医学部がその若いエネルギーを結集して躍進を続けて欲しいと念願するものである。



H3. 1. 23. 高岸教授最終講義にて



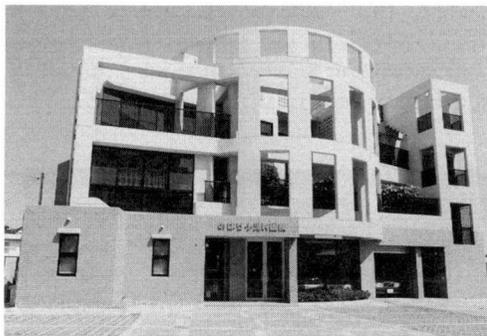
H3. 2. 2. 志村教授最終講義にて

会員寄稿

野原 薫 (昭和55年医学部卒/昭和61年大学院卒)

福大を卒業して早11年になります。

福大小児科で研修後、大学院で呼吸機能学を専攻し、小田禎一教授、吉田稔教授、村松和彦講師のご指導を受け、新生児の呼吸器疾患について研究しました。在学中には金沢大学麻酔科の小林勉教授、Sweden・Karolinska 研究所の B. Robertson 教授、京都大学胸部疾患研究所の鈴木康弘教授のもとでも研究させて頂き、更に私の最も尊敬する新生児呼吸機能学の第一人者である Albert Einstein 大学の E.M. Scarpelli 教授のご指導も受けることができ、非常に有意義な4年間を過ごしました。大学院卒業後、国立療養所南福岡病院の西間三馨院長のご指導を受け、再び福大小児科に戻りました。福大で研究を続けたかったのですが、昭和62年、諸事情により郷里の沖縄に帰ることになり、琉球大学小児科に入局しました。当時、琉球大学医学部は一期生が卒業したばかりで、小児科の医局員はわずか20人余で、診療、教育、研究と忙しい毎日でした。平山清武教授のもとで講師、医局長を歴任、昨年卒後10年を期に自分なりの医療を求めて11月より那覇市の南隣にある南風原町で小児科医院を開業しました。沖縄県は出生率が非常に高く、その中でも南風原町は最も高く、小児が多いところです。これからは次代を担う子供たちの健康を守っていきたくと思っています。



のはら小児科医院

福大への要望としては若い研究者をもっと大事に育ててほしいと思います。確かに診療、教育も大事ですし、福大医学部の目標はよい臨床医を育てることですが、研究することによって更により医療ができると思います。

最後に、近いうちに福大医学部同窓会の沖縄支部を発足させようと考えています。県内には約20人の同窓生がおり、今後益々増えると思われます。ぜひご協力をお願い致します。また沖縄へお越しの節はご一報下さい。

信州大学第一外科 嘉数 徹 (4回生)

私は現在信州大学第一外科に在局し、主に肝疾患について勉強しております。当地はご存知のように標高600メートルの高地であり、周囲を日本アルプスに囲まれた日本でも有数の寒冷地です。昼夜の気温の差は極めて大きく、真冬には最低気温がマイナス十数度になることもあります。

信州大学病院はベッド総数約700床で、私がいます第一外科は幕内雅敏先生を始めとする45人の医局員で構成されそのほとんどは35才以下です。肝胆膵班、消化管班、小児班、脈管内分泌班の各班に分かれ、近々移植班も増設されるようです。医局員は入局4年の間に全ての班をローテイトし、その後希望の班に固定するというシステムになっています。第一外科の年間の手術症例数は、約600であり、新教授の就任で肝切除症例が増え、昨年4月より12月末日迄に約50を数えました。これに生体肝移植の3例が加わり、医局員の毎日の生活には厳しいものがあります。しかし若さというものはずばらしく、その快復力にはいつも驚かされております。私は医員で在局中ですが、現在3人1組で患者の診療に当たっております。若い連中の中であって、体力差をひしひしと感じるこの頃ですが、もう数年肝についてこの寒冷の地で勉強したいと



雨の松本城

考えております。いつになるかは分かりませんが、今度九州に帰りますときはよろしく御教示ください。

当地は、やっと雪解け水が女鳥羽川を下ってくる季節となりました。最後に松本城の写真を添えて筆をおきます。皆様の健康を祈っております。

平成3年3月30日



(第6回生) 宮本康嗣

薬理学 (現 St. Luke's-Roosevelt Hospital Center, Columbia University)

福岡大学医学部同窓会の国際的発展を祈り、湾岸戦争の終結を迎え喜びで一杯のニューヨーク、マンハッタンからの記事をお送りします。

私は現在、マンハッタンにあるコロンビア大学付属の St. Luke's-Roosevelt Hospital Center にて AIDS に関する臨床免疫学の研究を行なっています。

そもそもは会社勤めで漢方医学に目覚め、脱サラで福岡大学医学部に第6回生として再入学以来、漢方医学に対する思いは絶ちがたく内科第一で研修を済ませた後、漢方が西洋医学に受け入れられるためには、科学的な裏付け、分析が必要と考え、学生時代からたまたま出入りしていた薬理学教室の古川教授が、研究面では厳しいながら、一面で意外にも漢方に少なからず関心を示して頂いたりということもあり、薬理学教室で助手として仕事をさせて頂きました。そして学位の仕事がまだ十分完成しないうちにニューヨーク留学の話が舞い込んで来ました。私自身は仮に留学をするにしても、それまでは欧米圏への関心は全くなく、行くならば中国と決めて中国語も独学で勉強していたのですが、世界の最先端の都市ニューヨークの、名門コロンビア大学の付属病院で、しかもテーマは AIDS と漢方ということでしたから、面白そうだが、でも怖いし……と、かなり迷った挙げ句、地球の裏側まで来てしまったというわけです。

漢方医学は、西洋医学とは或る意味では宇宙語と地球語の違い、ないしは宗教上の違いがあるようなものであるかもしれません。しかし宗教の違い（だけで簡単に片づけられるものではありません）が時に、特に今回のような湾岸戦争を引き起こしたように互いに相手の立場を理解せず、また認めようとしないで、自分だけが正しいと信じてるところから、悲劇は生まれてくるものと思われまます。明治時代に西洋に追いつき、追い越せ、ということで漢方が日本の医学の中から葬り去られようとしたが、淘汰されようとしたにもかかわらず、歴史の中で生き残り、いま再び見直されつつあるという現状は決して無視はできないでしょう。数年前までは大学病院で漢方診療をやっているところといえば五指に満たなかったものが1991年現在では東大にもあり慶応大にもあり、と、十数大学におよんでいる現実、そして WHO (世界保健機構) ですら伝統医学に目を向け、日本では漢方診療および研究のメッカとも言うべき富山医科薬科大和漢診療部が WHO の協力機関として軌道に乗りつつあるという現実、今後さらに漢方医学が西洋医学の中に浸透していく可能性を示唆するものでありましょ

う。これは今回の戦争のように決して侵略するのではなく、互いの長所、短所を見極めながら互いに協力しあい補完しあっていくということで、人類の健康に、より貢献していくことを意味します。そして漢方を見直すということは自然を見直し、さらには地球を見直すということにつながるものと思われまます。

さてここ St.Luke's-Roosevelt Hospital Center の内科学リウマチ学研究室 Dr.Inada のもとで私は AIDS も含めた HIV 感染に取り組んでいます。リウマチと AIDS という一見奇妙な取り合わせは、実はそうではなくリウマチ、SLE など多くの自己免疫疾患の免疫異常と AIDS の免疫不全との間に類似点が多いという点から、この研究室では移植免疫やリウマチからスタートしてここ十年近く、隣のラボの感染病学教室とも共同で AIDS に関する臨床免疫学に取り組んでいます。特に、免疫システムのうち最も初歩の段階で生体防御の最前線にある補体およびそのレセプターに関する研究が主と言えます。ご承知のように、初めて異物が生体内に入ってきた場合には、特異的免疫反応（抗原抗体反応）は殆ど無防備に近く、非特異的異物識別機構が生体防御にとって必要であり、その主役を担うのが補体であり、補体とは、20余りの酵素およびその生体内拮抗物質の一連の物質の総称ですが、これらのうちでも中心的役割を演ずるのが C 3（補体第3成分）であり、これが活性化された C 3 b が病原体と結合して C 3 b レセプター（CR1）を持つ細胞（マクロファージや多核白血球など）に吸着され、食作用を受ける、というように抗原抗体反応以前の免疫の最前線にあって敵の侵入に備える役割を果たしています（かわいそうにイラク軍の最前線の兵士達は食べ物や飲物も十分になく、草をかじりながら敵に白旗を振る日を心まちにしていたそうです）。CR1 は赤血球表面にもあり、その数は白血球上のそれに比べ少ないにもかかわらず細胞の数が圧倒的に多いため、生体内の CR1 の 90% 以上が赤血球上にあることとなります。赤血球の CR1 の機能を知る人は多くないかも知れませんが、血中の免疫複合体を捕捉し、肝脾などの網内系へ運んで処理するという、いわゆるシャトル機能、ないしは免疫複合体をゴミと考えればゴミ運搬車とも言うべきはたらきをもっているのです。この CR1 は SLE 患者の多くで減少しており、HIV 感染においても病状の進行と平行した漸減がみられ、AIDS 発症の予測マーカーともなりうることを見いだしたのは、当研究室の Dr.Inada であります。さらに彼は赤血球のシャトル機能に目をつけ、治療を目的として CR1 に富むイキのいい赤血球を輸血することを提唱し、これは当研究室のプロジェクトの一つとして既に 3 年以上続けられており、一定の成果も得られています。AIDS に対し輸血を治療としてやっているのは世界広しといえども、いま現在ではこの施設くらいのものでしょうか。我々の研究室では CR1 を赤血球の凝集反応により、-（0%）から 1+（25%）～4+（100%）の 5 段階にわけて評価する方法をとっていますが、健康な人では多くの場合 4+ を示し、ARC（AIDS related complex）、AIDS になるにつれ、3+、2+、1+ の割合が増え、さらに症状が進むにつれ、CR1 はなくなってしまいます。つい先頃、私は風邪から気管支炎を生じ、高熱で 2 日間寝込み、汚い痰がひっきりなしに出るという状態にありましたがこのような時でも CR1 を測ってみますと、それでも 4+ ありますから、赤血球上の CR1 は減多なことでは減少せず、持続的な感染が相当期間続くか、自己免疫異常が持続するかでなければ起こり得ないということは身をもって感じることができます。実際 HIV 感染者でも CR1 が 2+ までの人はほとんどが無症候で安定していますが、1+ ないしは - の患者は早晩日和見感染を起こしてきます。それでも昨今は - の患者でもペンタミジン、ゾピラックスなどを予防的に与えることで安定した状態を維持させることができるようになってきました。というわけで赤血球上の CR1 がなくなってしまうということは想像を絶する持続感染が続く結果であり、HIV 感染の異常さ、すさまじさを物語るものでありましよう。さらに HIV 感染のすさまじさを具体的に一つだけ紹介しますと、これはつい先週亡くなった患者ですが、

輸血療法でかなり安定した期間を過ごしていたものの、貧血が進行し、ヘマトクリットが25%を切ったというので2ユニットのバックRBC（輸血用の血液でも100%、4+を示すというわけではありませんので、ここでスクリーニングをおこない、CR1に富むものを選択します）を輸血しましたが、その1週間後にはヘマトクリットが20%を切り、再度3ユニットの輸血をせざるを得ませんでした。こうなるといよいよ末期で、このさらに1週間後にはヘマトクリットが11%まで下がり、再度の輸血の途中で突然の消化管出血により死亡してしまいました。出血はこの時が初めてで、この間出血はおろか溶血さえおこっていないのです。では輸血した血液はどこへ消えたのか、不思議なくらいですが、ウィルスの増殖が赤血球のCR1を占拠しつくし、網内系の処理機能をはるかに上回る免疫複合体を生じ続けた場合、赤血球表面は免疫複合体で覆い尽くされ巨大なゴミとしてしか認識されなくなります。こうなったら赤血球は様々の組織において、マクロファージに丸ごと食べられてしまうという、いわゆる erythrophagocytosis という現象がおき、実際 AIDS 死亡患者の剖検ではこの現象はしばしば観察されるそうです。

このように臨床と直結した場所で臨床経過も追いながら、補体に関する研究の他、私はさらに患者からえられた分離白血球におけるアラキドン酸代謝物の遊離に対する漢方薬の影響についての研究もおこなっています。

ニューヨーク在住の日本人は7~10万人と推定され、そのうち400~500人がゲイ（いわゆるホモ）といわれており、当研究室ではその1割近くについて数年にわたって follow を続けています。さらにその一部、およびアメリカ人でも漢方に興味をもち、理解も示してくれる患者については私が漢方的立場から診ることもあり、このような患者さんも含め、研究室にはしばしば患者さんが出入りしており、時に研究室は患者さんの息抜きの場になることさえあります。それだけわが研究室のボス Dr. Inada の、患者さんからの信頼が篤いということも言えますが、いちばん気心の知れた患者さんは我々をイナちゃん、ミヤちゃんと呼んでくれたりもしています。ゲイのおじさんに慕われても……、と思わない気がしないでもありませんが、医者、患者の絆をこえて人間くさい付き合いができるのもわがボス Dr. Inada の人徳のなせるわざ、と思ったりもします。このような場所で試験管内だけの仕事だけではなく、死の恐怖と隣合わせの様々な人格とぶつかりあい、少しでも彼らの支えになることがあれば、それは医者としては最大の喜びであり、何物にも代えがたい貴重な体験をすることにもなるわけですから、時にしあわせであると感じることもあります。ボスの Dr. Inada は患者の信頼も篤い素晴らしい人物ですが、その彼を取りまく人物の中にも素晴らしい人達があります。そのほんの1例を紹介しますと、Dr. Sonnabend という人がいて、この方を私が初めてみたときは何かの講演の席でしたが、無精ひげだらけで、背広はよれよれ、背中あたりは擦り切れてさえいるという、ホームレスのほうはまだましな格好をしているものもいるくらいの服装で、何物かと思っていると、うちのボスが親しそうに話をしていますし、あとで、この方がボスがしばしば電話でものを頼んだりしている Dr. Sonnabend だと知りました。ダウンタウンのクリニックで AIDS を専門に多くの患者を診るだけでなく、研究にもおおいに関心をもち、我々が、こういう患者の血液サンプルが欲しいというとき快く送ってくれたりもします。

我々が follow 中の患者の一人は、職を失いアパート代を払えなくて追い出され、以後ホームレスとして数カ月あちこちを点々として、借金もしまくって、いよいよどこへも行けなくなって本当のホームレスとしてニューヨークの寒空の下で外で寝泊まりしている間に熱を出し、数日間食うや食わずで、これまた我々が follow 中の患者のもとへ息も絶え絶えに尋ねたそうであります。彼は一時期、稼ぐ金はすべてコカインにそそぎ込んでいたという話して、将来を考えず快楽を追求した結果いつのまにか

ホームレスになっていたという、なにやら「アリとキリギリス」を連想させられるような話ですが、尋ねられたその彼からすぐに電話があり、自分の友達の友達だから面倒もみているが長くおく訳にも行かないし、なにより病気だから、という知らせです。着ていた服は上から下まで全部取り替え洗ってやったが何回洗っても黒い汁が出て来る、というくらいに汚れていたようです。連絡があったとき、ボスがいろいろ頼める臨床のドクターは何人もが学会や会合で出ていて数日は戻らないという状態でした。この時連絡がとれたのが唯一、かの Dr, Sonnabend でしたが、彼は Inada の頼みなら、ということで昼間、自分の診療時間の空いた時間に患者が寝込んでいるところへわざわざ往診してくれて、PCP (Pneumocystis Carinii Pneumonia; カリニ肺炎) をおこしているようだし、なんとか入院できるようにと取り計らってくれました。これで彼は一銭も (1セントも) 要求しないのであります。アメリカには「赤ひげ」はいないと思っていましたが、彼こそまさに赤ひげであり、これもわがボス Dr, Inada の人間性が、類は類を呼んだ結果かな、と思ったりもします。心洗われる思いもしますが、このような人々に囲まれた環境で仕事ができるのは、繰り返しになりますが幸福と言えるでしょう。このようにして入院した患者を病棟に見舞ったとき、別れ際には、「よく休んで、よく食べて1日も早く良くなって下さい」と言うのではなく、「食欲がでてきても多少は残して、元気にならず1日でも永く病気のままでいて下さい」と言わざるをえません。なぜなら退院しても彼には行くところがないからです。

私が漢方的に HIV 感染者を診たのはまだ二十数名しかありませんが、それ以外の HIV 感染患者も含めればなんらかのかたちで診た患者は数十名におよぶでしょうか、なかには感染のリスクは十分にもちながら検査の結果は陰性、という幸運な人もいます。HIV に感染した人達は、死の恐怖に常につきまとわれながら、それでも最近では Living with AIDS という標語のもとに積極的に生き始めており、日々このような人達とつき合っていると、いわゆる『健康に生きている』人が実際どれだけ健康に、かつ真剣に生きているだろうかと、考えさせられることすらあります。

HIV だけで紙面を費やしてしまいましたが、最後にマンハッタンの生活について一言、マンハッタンも含めニューヨーク市は世界一といえるほど犯罪も多く、ある意味では怖いところでもあります。そのほんの一例を紹介しますと、このアパートのすぐそばにはかの有名な「コットンクラブ」がありますが、つい先日、明け方近く4時頃、数発の銃声らしき音に引き続いて大勢の人の叫び声や駆け回る物音で目を覚まされ、窓から覗いてみますと、コットンクラブから人が飛び出しそばに停めていた車に乗って慌てて逃げ出す一群があります。すぐにパトカーや救急車が来ましたので、店の中で発砲事件があったことは間違いのないようですが、翌日の新聞で記事を探しても、この程度のことは記事にもならないくらいです。かと思うと、平和な田舎町に留学しているような人の場合、ほとんど和姦に近いようなレイプ事件が新聞にぎわすと言いますから、さすがにアメリカは広く、かつ多様といえましょう。犯罪はさておき、ここニューヨークは世界最先端の国際情報都市でもあり、学問、科学技術などに関しては最新の情報も得られるし、加えて200年余りの歴史しかもたないにもかかわらず、さまざまな文化、芸術が保たれ、それらに気軽にしかも安価に (時に無料で) 触れることできるという点は、日本は到底太刀打ちできないし、旅行でニューヨークを通過するだけでは得られないものが、ここで生活することによって得られるということは実感できます。物価は日本に比べると高いものもありますが、それらはほんの一部であり、日本よりははるかに暮らし安いといえます。ここの生活に慣れたら日本に帰って困るのではないかと思うくらいです。

そんな訳で、あらゆる面でスリリングでエキサイティングかつ刺激的な街、ニューヨークでの生活を一度はあなたも体験してみませんか? とお奨めしつつペンを置くことにいたします。

(1991年春)

医局紹介

脳神経外科

脳神経外科は第一回卒業生から現在までに27人の入局者を数え、内6人が退局して後継者として地元で活躍しております。時代のニーズにより脳神経外科の施設は最近増加してはいますがまだまだ一般外科のように習得した技術を生かせる場所が少ないのが現状です。そのため大学やその関連病院でローテーターとして仕事をしている者か、または実家の後を継いでいる者が大半で、他科のように多施設で根を生やすように就職して本学卒業生の実力とカラーを各地域に知らしめるところまで行かないのが少し残念なところ。とはいえ最も難しい試験の一つとされる日本脳神経外科学会専門医試験に1990年までに卒業生から8人が合格しており、その名に恥じないように習練を続けていることは私達の誇りでもあります。また、本年3月に行われた日本脳神経外科コンGRESでは『脳室鏡による中脳水道狭窄症の治療』という演題でビデオ講演した熊手先生が学会から優秀ビデオ賞を獲得、さすが長年ビデオ業界に馴れ親しんだ奴は違う！と皆をうならせたものです。

留学経験者は未だ少なく、施設はカリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF)、ブリティッシュ コロンビア大学 (Canada) の2カ所ですが、さらにメイヨークリニックへの留学も内定しており、優れた知見と広い視野を得る機会は今後益々増えるものと期待されます。

現在、脳外科がカバーしなくてはならない領域は脳血管疾患、脳腫瘍、小児脳外科、外傷、脊髄疾患と広範囲に及んでいます。従って当然の事ながらこれら全ての手術や知識に習熟することは先ず不可能と言わざるを得ません。今後私達卒業生が必要と考えていることは、そのいずれかの専門領域において良い仕事をし、頭に修飾語の付いた脳外科医が増えること、故郷に戻られて活躍しておられる先輩方との交流を絶やさずあうんの呼吸で情報を提供し合うこと、だと考えます。運良く、福大の卒業生は封建的上下関係を得意としておりません。この事が将来的に必ず大きな力となるという気がしてなりません。

文責 脳神経外科 松田年浩

筑紫病院・新規開店のお知らせ

平成3年1月4日、福岡大学筑紫病院に新たに泌尿器科・耳鼻咽喉科・眼科の三科が開設されました。現在のスタッフは以下のとおりです。何せまだOpenしたばかりで、やっと部屋と机と本棚も揃いこれから本番というところです。しかし、病める患者さん達はこんな我々の準備を待つてはくれません。開設当初はポチポチだった患者の数も日々増加し、スタッフの数が少ない事もあって、忙しい日々を送っています。七隈と比べ良い点は、上下・左右の連絡が取り易く、“○○先生知らん？”と聞いたら“今、うんこしようよ”とすぐに所在がわかります。不便な点も多々ありますが、特に院内に自動販売機が全く無く、食堂も徒歩30秒の院外に1つです。当直室は勿論ありますが、風呂が無いのが寂しいかぎりです。その他不便な点もありますが、“俺達が来た当初はもっともっとひどかった。文句を言うな！”と有馬教授にムンテラされ、新参グループは実績が上がるまで一生懸命頑張る覚悟です。同窓会の皆さん！筑紫野路を歩いてみませんか？途中で筑紫病院を見つけたら必ずカルテを作ってかえって下さい。新患増加に御協力を！

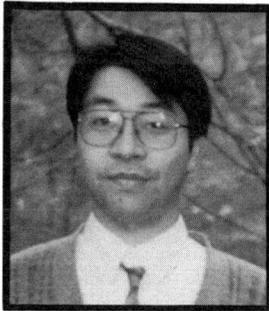


泌尿器科:	有 吉 朝 美 教 授
	辻 祐 治 講 師
	調 永 成 医 員
耳鼻咽喉科:	山 崎 重 成 昭 三 教 授
	崎 野 惠 三 助 教 授
眼 科:	向 野 利 寛 幸 賢 研 究 生
	大 杉 善 紀 幸 文 研 究 生
	中 道 道 俊 文 医 生
	小 田 洋 英 研 究 生
	古 藤 登 美 子 研 究 生

(平成3年4月現在)

文責:眼科 大塩善幸

会 員 計 報



松崎 元徳先生（8回生）
 平成3年1月4日早朝、急性心不全のため急死された。当時、福岡大学大学院在学中。内科第二
 [連絡先]
 〒859-31佐世保市三川内本町179 松崎良徳様

松崎元徳君を偲んで

仁 位 周 介

私が、その訃報に接したのは1月4日の早朝でした。何の予感も、前触れもない訃報でした。実感などないままに友人と連れ立って彼の実家に赴いた時、突然のように、心が萎えるような無力感に襲われました。

たくさんの方が、お通夜に見えていて、その中に何人か、知った顔もありました。

思えば、彼の回りにはいつもたくさんの方の友人、先輩、後輩がいて、回りに笑いの絶える事のない明るい人でした。医者になってからは、医局が違う事もあり、そう再々、会う機会もなく、それでも、たまに、仲間で飲みに行っただけの仕事とは離れて、くだらない冗談から将来の話まで、とりとめもなく時間を過ごしました。こんな事なら、もっとたくさん話をしておけばよかったと思うのは、私だけではないと思います。

時折、雪が舞い、寒風が肌を刺す告別式の日、彼がいなくなっても、何の変わりもないように過ぎてゆく世の中が、妙に空々しく、モノクロの絵の様で、何故か不思議な気がしました。こんなにも多くの深い悲しみを彼は背負いきれるのだろうかと思ひながら。

思い返せば、不安の中で迎えた国家試験や気の合う仲間で行った卒業旅行、バレーボール大会など、たくさんの方の思い出を残し、帰らぬ人となった今、彼を知る人たちの中で、いつまでも色あせない彼である事を願うのみです。

今、悲しみの底にある御両親、御家族には哀悼の言葉ありませんが、彼がこんなにも優しく、皆から愛されていた事だけは、改めてお伝えしたい気持ちです。

松崎元徳君、安らかに、お眠りください。

そして、君を知る人たちの中で、いつまでも生き続けて下さい。

松崎元徳君へ送る

松 岡 弘 文

僕は最近無性に学生時代が思い出されてなりません。共に学位審査を終了し、一時の安堵を感じずる時に君の訃報に接してしまったためでしょうか。

思い出は何故か白衣を着た君ではなく、本学での教養部時代ばかりが浮かんできます。浪人生活に何となく嫌気がさしていた時に、学生服の君らを瑞々しく感じた福大受験の時、1号館や2号館で受けた語学の講義、9号館での物理や化学の実習など。学籍番号が隣どうしの僕らはいつも一緒でしたが、君は若々しく意欲的で、しかし控えめで落ちついていました。後ろの松村さんとの年齢も体格も異なるコンビも妙にマッチしていました。2人のやる気に引張られほくも仕事が進んだものでした…。

医者になってからはお互い違う科を専攻しましたが、ともに大学院に進みそれぞれの研究に励んできました。その仕事を終え、論文審査を終了するとともに逝ってしまうとは……嗚呼、あまりに早い幕引ではありませんか。医者としても、研究者としてもこれからではありませんか。希望も、計画も、野心もあつたでしょうに無念でしょう。

しかし、君は学生時代を満喫し、意欲的に仕事をし、立派な研究をし十分に生きたのだと信じたい。そして、ほくは何時までも君のことを思い続けるに違いない。今でも君が二内科の研究室で仕事をしているような気がしているのだから。

あまりにも早く790091の席を空席にしてしまった君は、しかし僕の、否僕ら同級生全員の中にもいつまでも生き続けることでしょう。安らかに眠って下さい。

= 学 生 欄 =

第10回医学祭をふりかえって

M5 実行委員長 赤松春樹

平成2年11月1日より4日間にわたり第10回福岡大学メディカルフェスティバル及び医学展を催しました。

今回は10周年という1つの節目にあたり今日だけでなく遠い将来をも見つめて、日々前に進んでいこうという思いが込められています。結果としては医学展では4日間で入場者が2000人を越えるなど、その他の企画も大変盛況なものでした。

私個人としては今回委員長という大役をいただきましたが、今それを振り返ると様々なハプニング・ケンカ・口論などもありました。しかし、そういった“ぶつかりあい”も打ち上げのときには、お互いかたをたたきあって喜ぶ姿に変わり、僕自身も仲間と心から喜び合いました。

今回は第10回記念として毎年の企画のほかに『僕が医者をやめた理由』の著者である永井明先生に來福をしていただき、平成2年11月4日に講演会を行いました。この講演会を行う際に同窓会の温かなご協力のもとに講演費用を援助していただいたことを、この場をかりて感謝いたします。

最後になりましたが、これからも医学祭そして福大生を温かく見守ってくださるよう宜しくお願いいたします。

第11回医学祭を迎えるにあたって

M4 実行委員長 満尾雅彦

去る11月22日の西医体福大支部総会において、過去先輩方に文化発表週間として親しまれてきたものが、今回より医学祭となって新しくスタートすることになりました。

第8回の文化発表週間より、開催の場所を本学キャンパスに移し、七隈祭の中で、無料健康相談、心理テスト、救急蘇生など日頃の学業を生かす場として、又、地域住民の人々とのふれあいの場として位置づけられてきました。今回、第11回

医学祭を開催する訳ですが、ちょうど転換期に立っていると思われます。そこで我々は、“今”自分達がどのような状態にあるかということをしつかり見つめて、未来に向かって前進し、福岡大学医学部の新しい伝統を作りあげていこうと思います。

最後になりましたが、医学祭を成功させるために、同窓会の皆様の御助力を是非ともお願い致します。

『無気力・無感動・無関心』

M4 西医体委員長 嶋田充志

現代の若者の特徴が、無気力・無感動・無関心と言われはじめて久しくなります。このことは、我々、学生にも例外なくあてはまっていると思われます。本当に、利害損得の勘定抜きで物事にあたれる人が、果たして何人いるのでしょうか。

懸命になること、見返りを期待しないで努力することは、決してカッコ悪いことではないのです。できれば、さらりとスマートに物事をこなしていけるのが理想ですが、往々にして、その人がそこまでに泥まみれになってやってきたことを見落として、誤解してしまいます。「すぐに自分もできるようになるのでは。」と。

さらに、もう一段階進んでみましょう。

自分のためだけでなく、人のために命をかけてみる。そうすることによって、今まで、埒があかなかつたものに打開策が見つかったり、世界が広がったりする。「自分のことができてないのに人のことなんて……」は、言い訳ではないでしょうか。

規定してしまうのは早すぎるのではと思います。一人でも多くの方がこの意見に賛同し、ついてきてくれることを希望します。

我々は、まだまだ、発展途上なのですから。

愛好会紹介

「Do you know archery?」

M4アーチェリー愛好会主将 宇野博之

我がアーチェリー愛好会は、医学部のサークルとしては四番目に古いサークルです。三年前には部員の減少で廃部する寸前までいったのですが、その後は幸い毎年部員も増え続け、現在では、男子十二人女子五人の計十七人となりました。

昨年全日本医科学生体育大会では、男子シングル部門、コンパウンド部門でアベック優勝ならびに男子グリーン部門四位というかがやかしい成績をおさめることができました。

こういう我が部ですが、様々な問題をかかえています。道具、設備が高価なためにお金がかかること。又、男子と女子とでは試合での目標に違いがあるため、練習を一緒にできないことなどです。

問題点はいろいろありますが、最後に今年は個人だけでなく団体でも入賞をたすことを目標とし、練習したいと思えます。

漕艇愛好会

M4 山田 徹

我が漕艇愛好会も今年で創部12周年目

を迎え、ようやく近年になって実績を残せるようになってきました。

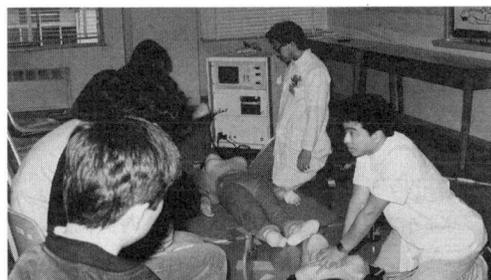
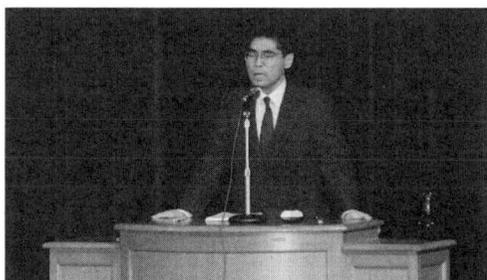
ただ今、部長に第一内科の奥村恂教授、部員17名、マネージャー3名と我が大学愛好会の中では決して多い方ではありません。しかし少数精鋭という言葉があるように情熱と闘志に満ちた一人一人の部員が日曜祭日を除いて毎日、筋肉トレーニング、陸上トレーニングそしてRowingを常に大会を意識しながら励んでいます。

過去3年間の大会での成績を振り返ってみますと3年前の九山3位、一昨年の西医体ナックル部門優勝、昨年の西医体5位、その他数ある市民体育大会では毎年多くの好成績を残しています。

去年の西医体終了後には、待望の新艇（舵付きフォア）を購入し今年から西医体総合優勝をも狙えるようになりました。また今年は第30回九州・山口医科学生体育大会の主管を任せられ、準備共々、九山初制覇に向けて最後の調整を行っているところです。

今年も好成績を残せるよう部員を引っ張っていくつもりですので今後の我が愛好会の活躍に御期待下さい。

最後になりましたが、同窓会の先生方の御尽力に心から感謝し、我が愛好会の紹介とさせていただきます。



【会議報告】

平成2年11月27日(火) 19時 理事会

場所 医学部1階 B会議室

- 議題
1. 清永教授、教授就任記念行事について
 2. 志村、高岸教授の最終講義について
 3. 同窓会の将来構想について
 4. 会則、細則の改正について
 5. 会費の額の変更について
 6. その他

平成3年1月22日(火) 19時 理事会

場所 医学部1階 B会議室

- 議題
1. 最終講義の対応について
 2. 来年度総会について
 3. 若い医師のためのマニュアル

の作成について

4. その他

平成3年1月29日(火) 19時 役員会

場所 医学部3階 A会議室

- 議題
1. 会則の改正について
 2. 細則の改正について
 3. その他

平成3年3月19日(火) 19時 理事会

場所 医学部1階 B会議室

- 議題
1. 会則、細則の改正について
 2. 設立10周年記念行事について
 3. 平成3年度総会について
 4. その他

【新聞広告について】

平成3年1月14日の毎日新聞夕刊に福大医学部創立20周年を記念して、卒業生による協賛広告が掲載されました。ところが業者が広告勧誘を行う過程で、あたかも同窓会がこれに関与しているような言辞を使用し、会員諸兄に誤解を与え、また少なからぬご迷惑をおかけしたようであります。かなりの方から問い合わせの電話を戴き申し訳なく思っております。しかし同窓会としては全くそういう事実はございませんので、その点お断りしておきます。

このような事で再び会員に誤解や被害が生じないように、今後同窓会が関与する場合には、何らかの方法で必ず事前に周知の手段を採りますので、どうぞご承知おき下さい。

【お知らせとお願い】

1. お便りを下さい。

何にでも使える葉書を差し込んでいます。開業や結婚、出産や近況などの報告、随筆、ご希望、ご意見、スケッチ、漫画、その他のお便り、なんでも気晴らしにお送り下さい。同窓生の触れ合いに利用しましょう。これだけでは物足りないという方は、原稿用紙でご投稿下さい。大歓迎です。

2. 住所変更のご連絡をお願いします。

郵便物がかなりの数返ってきます。住所を調べ直して再発送するテーマ、ヒマ、カネも馬鹿になりません。このほか転送して戴いているものも相当数あると思いますが、なるべく善意の方にご迷惑がかからぬよう、住所が変わっている方は、差込みの総会出欠通知の葉書を使ってすぐお知らせ下さい。

住所等の変更 [訂正Ⅲ]

平成3年3月現在(届出分のみ)
(お手元の1989年版名簿をご訂正下さい)

共通	[〒]佐賀医科大学の郵便番号	〒849	
1回生			
松崎 恵子	[住]	TEL0948-65-2893	
元永 隆三	[住]	〒803 北九州市小倉北区田町12-19	TEL093-561-0192
	[開]	同上 元永外科クリニック	TEL093-561-0768
山崎 節	[開]	〒815 福岡市南区高宮3-19-5	
2回生			
穴井 恵子	[住]	〒814 福岡市城南区友丘3-2-22-1	TEL092-871-9776
	[勤]	〒810 福岡市中央区薬院4-15-6井樋病院	TEL092-521-2355
穴井 堅能	[住]	〒814 福岡市城南区友丘3-2-22-1	TEL092-871-9776
	[勤]	〒814-01福岡市城南区七隈7-45-1 福岡大学医学部心臓外科	TEL092-801-1011
石田 英樹	[氏名]石田 秀樹 [教室]皮膚科		
	[勤]	〒849 佐賀市高木瀬西5-15-27 ながせ皮膚科	TEL0952-32-1214
金内 規巳子	[住]	〒634 奈良県橿原市見瀬町2093-5	
	[勤]	〒638 奈良県吉野郡大淀町下淵353-1 町立大淀病院	TEL07475-2-8801
中井 太一	[住]	〒343 埼玉県越谷市花田1025	TEL0489-64-4561
	[開]	〒343 埼玉県越谷市越谷2-1-1 四宮ビル2F 中井皮膚科医院	TEL0489-65-7127
福岡 英信	[住]	〒849 佐賀市開成6-14-7	TEL0952-31-5195
	[開]	〒佐賀市開成6-14-10 福岡病院	TEL0952-31-4611
3回生			
小 禄 尚	[住]	〒902 沖縄県那覇市繁田川5-3-3 グランシャトレ401	TEL098-833-3926
	[勤]	〒905 沖縄県名護市字宮里1260-1 名護クリニック	
木 附 久雄	[住]	〒819 福岡市西区石丸1-4-9-607	TEL092-883-4153
	[勤]	〒812 福岡市東区馬出3-1-1 九州大学医学部 第1外科免疫研究室	TEL092-641-1151
小金丸 史隆	[住]	〒814-01福岡市城南区七隈4-24-39-2	TEL092-863-1857
野原 薫	[教室]琉大小児科		
	[住]	〒901-11沖縄県島尻郡南風原町字兼城258	TEL098-888-2112
	[開]	同上 のはら小児科医院	TEL098-888-2111
雪 竹 浩	[住]	〒810 福岡市中央区大濠2-1-5-202	TEL092-752-5949
4回生			
今村 達也	[住]	〒815 福岡市南区筑紫丘1-23-9-507	TEL092-541-1975
川 畑 悦男	[教室]鹿大眼科		
	[開]	〒890 鹿児島市真砂本町13-3 鴨池眼科クリニック	TEL0992-54-0877
津 村 和孝	[住]	〒839-11久留米市善導寺町飯田905-10	TEL0942-47-3673
	[開]	同上 飯田905-7 つむら眼科医院	TEL0942-47-3678
原 信 也	[住]	〒810 福岡市中央区六本松3-10-50-205	TEL092-734-3420
村 田 英昭	[教室]解剖第一		
	[住]	〒819 福岡市西区生松台2-21-3	TEL092-812-1262
	[勤]	福岡大学医学部解剖学第一	
渡 辺 大介	[住]	〒815 福岡市南区筑紫丘2-9-1 ロマネスク筑紫丘401	TEL092-542-1383
5回生			
稲 員 徹	[住]	〒815 福岡市南区野間2-3-32-601	TEL092-512-8438

- [勤]〒816 福岡県大野城市大字乙金553-11 TEL.092-503-2261
つくし岡本病院
- 木村 博 [教室]薬理学、外科第一
[住]〒810 福岡市中央区小笹5-4-67 TEL.092-521-3065
ダイヤパレス植物園南509
- [勤]福岡大学大学院(薬理学)
- 後藤 広人 [氏名]後藤 廣人
陣内 裕一 [氏名]陣内 祐一
- 菅田 耕一 [住]〒819 福岡市西区姪浜町730-1 ダイヤパレス姪浜201 TEL.092-882-8514
- 前田 純雄 [住]〒820 福岡県飯塚市菰田西3-8-17-802 TEL.0948-25-7906
- 松元 博美 [教室]鹿大麻酔
[住]〒899-16鹿児島県阿久根市赤瀬川4513 TEL.0996-73-3451
[勤]同上 出水郡医師会立 阿久根市民病院 TEL.0996-73-1331
- 6 回生**
- 天野 修造 [住]〒810 福岡市中央区笹丘2-24-19-202 TEL.092-761-8457
[勤]〒819 福岡市西区生の松原3-18-8 西福岡病院 TEL.092-881-1331
- 今井 隆弘 [教室]病理第一
[住]〒810 福岡市中央区平尾5-3-7 TEL.092-531-2030
[勤]福岡大学医学部病理学第一教室
- 江口 冬樹 [住]〒815 福岡市南区長住5-13-27 TEL.092-553-5916
- 奥 研二 [勤]〒811-51長崎県壱岐郡郷ノ浦本村触682 TEL.09204-7-1131
壱岐公立病院
- 金光 徹二 [教室]熊大二外
[勤]〒865 熊本県玉名市玉名2172 TEL.0968-72-5111
玉名郡市医師会立玉名地域医療センター
- 桐野 良二 [住]〒815 福岡市南区寺塚1-20-1-101 TEL.092-541-0645
[勤]〒814 福岡市西区石丸3-2-1 白十字病院 TEL.092-891-2511
- 児玉 芳知 [住]〒886 宮崎県小林市大字細野1971-1永田町ビル303 TEL.0984-22-2141
[勤]〒886 宮崎県小林市大字細野55-1 小林中央眼科 TEL.0984-23-5300
- 高島 研介 [住]〒810 福岡市中央区赤坂2-6-23-502 TEL.092-751-7490
[勤]〒818 福岡県筑紫野市大字俗明院377-1 TEL.092-921-1011
福岡大学筑紫病院
- 中村 英助 [教室]分医大整形
[住]〒874 大分県別府市秋葉町8-24 TEL.0977-23-6523
[開]同上 恵愛会 中村病院 TEL.0977-23-3121
- 中邑 大猷 [住]〒863-19熊本県牛深市牛深町又1128-1 TEL.09697-2-5066
牛深市民病院医師住宅3号
[勤]同上 牛深市民病院 TEL.09697-3-4171
- 7 回生**
- 植木 光彦 [教室]筑紫内科
[住]〒815 福岡市南区向野2-24-8-304 TEL.092-541-3746
[勤]〒807-01福岡県遠賀郡芦屋町幸町8-30 TEL.093-222-2931
町立芦屋中央病院
- 木藤 洋一 [住]〒814 福岡市早良区小田部7-21-32-301 TEL.092-845-0594
[勤]〒814 福岡市早良区西新1-1-35 福岡記念病院 TEL.092-821-4731
- 柴田 京子 [氏名]山川郷子(旧姓 柴田)
[住]〒830 福岡県久留米市西町922-2 花畑舛田ビル407 TEL.0942-35-2126
[勤]〒839-02福岡県三池郡高田町大字濃施394 TEL.09442-2-5811
ヨコクラ病院
- 林 登喜子 [氏名]波多江登喜子(旧姓 林)
[住]〒814-01福岡市城南区宝台団地2-207 TEL.092-862-6307

- [勤]〒814-01福岡市城南区七隈7-45-1
福岡大学病院内科第二 TEL092-801-1011
- 松岡嘉宣 [勤]〒811-42福岡県遠賀郡岡垣町大字手野145
県立遠賀病院 TEL093-282-0181
- 8回生**
- 久保田晴郎 [住]〒780 高知市一宮1832レジデンスニチュー305 TEL0888-45-0643
[勤]〒783 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL0888-66-5811
高知医科人学病院小児科
- 国米秀幸 [住]〒862 熊本市新屋敷3-12-6 TEL096-362-8172
ライオンズマンション新屋敷601
- 児玉久美子 [住]〒886 宮崎県小林市大字細野1971-1永田町ビル303 TEL0984-22-2141
[勤]〒886-02宮崎県西諸郡野尻町大字東麓1082-1 TEL0984-44-1005
押川病院
- 下田敏文 [住]〒810 福岡市中央区地行4-9-17 TEL092-731-0117
[勤]〒812 福岡市博多区大博町 三信会原病院 TEL092-291-3434
- 副島久美子 [氏名]中島久美子(旧姓 副島)
[住]〒843 佐賀県武雄市武雄町大字富岡7641 TEL0954-23-2987
[勤]同上 副島整形外科病院 TEL0954-22-2155
- 中野賢三 [住]〒820 福岡県飯塚市立岩1300メゾン立岩303
[勤]〒820 福岡県飯塚市芳雄町3-83飯塚病院 TEL0948-22-3800
- 新山徹美 [住]〒165 東京都中野区江原町2-29-14-505 TEL03-3952-9043
[勤]〒101 東京都千代田区神田駿河台2-5
東京都がん検診センター
- 古瀬達人 [住]〒867 熊本県水俣市幸町17-202 TEL0966-63-1776
馬渡秀仁 [勤]福岡大学医学部産科婦人科、病理第一
- 9回生**
- 小田俊一 [住]〒814-01福岡市城南区片江1-13-12-401 TEL092-864-0429
合屋和弘 [住]〒806 北九州市八幡西区鷹の巣2-5-3 TEL093-642-0181
[開]同上 合屋病院 TEL093-642-0181
- 高地俊郎 [住]〒823 福岡県鞍手郡宮田町大字本城1758-1 TEL09493-2-1013
[勤]〒823 福岡県鞍手郡宮田町大字本城1636 TEL09493-2-3000
宮田記念病院
- 田中誠司 [教室]佐医大産婦を削除
- 10回生**
- 井上隆 [住]〒820 福岡県飯塚市飯塚6-6 花宅ビル406 TEL0948-28-4037
[勤]〒820 福岡県飯塚市芳雄町3-83 飯塚病院 TEL0948-22-3800
- 金田規嗣 [住]〒870 大分市賀来桑原5-2 パレロワイヤル2-205 TEL0975-49-3709
- 小柳邦夫 [教室]熊大精神科・精神医学
[住]〒862 熊本市健軍町2612 TEL096-368-5417
[勤]〒862 同上 小柳病院 TEL096-369-3811
- 田原敬士 [住]〒805 北九州市八幡東区枝光4-16-2 TEL093-662-7673
[開]〒805 北九州市八幡東区枝光4-3-14 TEL093-681-8651
田原外科整形外科
- 橋口純一郎 [教室]長大原研病理
[住]〒852 長崎市上野町20-21 サントスハイッ305 TEL0958-43-3403
- 北条香織 〒590 大阪府堺市榎元町1-3-31 ファミールグリーン203 TEL0722-32-9554
[勤]〒660 兵庫県尼崎市稲葉荘3-1-69 関西労災病院 TEL06-416-1221
- 水間陽一 [勤]〒814-01福岡市城南区七隈7-45-1 TEL092-801-1011
福岡大学病院放射線科
- 山上伸一郎 [教室]順大循環内
[住]〒135 東京都江東区新大橋5-4-404 TEL03-3632-6401

11回生

- 磯部 尚志 [住]〒670 兵庫県姫路市南八代町3-18 TEL0792-93-8148
 奥屋 昌司 [勤]〒501-51岐阜県郡上群白鳥町白鳥56 国保白鳥病院 TEL05758-2-3131
 鬼塚 美由樹 [氏名]松井 美由樹(旧姓 鬼塚)
 [住]〒810 福岡市中央区荒戸2-3-49-602 TEL092-716-1302
 [勤]〒814-01福岡市城南区七隈7-45-1 TEL092-801-1011
 福岡大学病院眼科
 高嶋 雅樹 [住]〒800 北九州市門司区大里戸ノ上1-9-26 TEL093-372-1341
 丸正ビル407
 [勤]〒800 北九州市門司区南本町3-1 市立門司病院外科 TEL093-381-3581
 竹内 俊夫 [教室]泌尿器科・佐医大皮膚
 [勤]〒814-01福岡市城南区七隈7-45-1 TEL092-801-1011
 福岡大学病院泌尿器科
 藤岡 靖也 [住]〒862 熊本市水前寺1-14-16 TEL096-385-3688
 ライオンズマンション水前寺第2-901
 松井 孝明 [住]〒810 福岡市中央区荒戸2-3-49-602 TEL092-716-1302
 [勤]〒814-01福岡市城南区七隈7-45-1 TEL092-801-1011
 福岡大学大学院(眼科)
 屋宜 宣守 [教室]琉大二内 [住]TEL098-937-1962
 [勤]〒903-01沖縄県中頭郡西原町字上原207 TEL09889-5-3331
 琉球大学病院第二内科
 山田 隆司 [住]TEL092-882-0962
 吉永 康照 [住]〒134 東京都江戸川区西葛西7-3-8 TEL03-3675-9789
 メゾンアルファ802
 [勤]〒104 東京都中央区築地5-1-1 TEL03-3542-2511
 国立がんセンター研究所病理

12回生

- 井関 貞文 [住]〒723 広島県三原市皆見町1424-2・3号 TEL0848-62-0274
 [勤]同上 1427-1 里仁会興生総合病院 TEL0848-63-5500
 篠山 理香 [住]〒759-41山口県長門市東深川85 TEL08372-2-4937
 長門総合病院医師住宅A
 [勤]同上 長門総合病院 TEL08372-2-2220
 陣林 伯禎 [住]〒747 山口県防府市大崎113 TEL0835-38-1409
 [勤]〒747 山口県防府市大崎77 県立中央病院整形外科 TEL0835-22-4411

13回生

- 飯田 武史 [出身高校]久大付設
 岡 幸三郎 [出身高校]久大付設
 村上 正彰 [住]〒814-01福岡市城南区梅林3-17-11 TEL092-873-0323
 サンジェリー梅林106
 [勤]〒814-01福岡市城南区七隈7-45-1 TEL092-801-1011
 福岡大学大学院(生化学第一)
 山内 紀子 [住]〒799-07愛媛県宇摩郡土井町入野981 TEL0896-74-2001
 [勤]同上 誓生会 山内病院 TEL0896-74-2001

【編集後記】

烏帽子ヶ池の畔の桜は今満開である。15年前のこの時期に医学部に入学した私には、懐かしい光景である。先日、卒業以来久しぶりに大学を訪れた友人が、大学やその近郊の変貌にたいへん驚いていた。その一方で卒業後ずっと大学に勤務している友人が、その旧態依然とした体勢に不平を漏らしていた。急速に変わりゆく大学環境とゆっくりと積み重ねられる我らが母校の伝統を改めて認識させられた。卒業生も1500人を越えた今、いろんな意味で大学が再注目されて来ていると言っても過言ではあるまい。そんな折り、今回は初めて海外留学中の同窓会会員より自主的に寄稿を戴いたほか、数名の学会員からの近況報告も掲載できることができた。会報編集委員一同たいへん喜んでいいる。次回は是非あなたが会員寄稿の主役となって戴くようお願いする次第である。

同窓会会報編集委員

田中伸之介(5回生)

伊東博己(7回生)

武末佳子(11回生)

(4月8日 記・文責：田中伸之介)

福岡大学医学部同窓会会報第10号

発行日 平成3年5月15日

発行人 山崎 節

編集人 田中伸之介

発行所 〒814-01

福岡市城南区七隈7-45-1

福岡大学医学部同窓会

電話(FAX) 092-865-6353(直通)

092-801-1011(代表)

内線 2798